

# 海外留学僧を送るの辞

常任理事

佐藤俊明

## 留学僧歡送会に於て

善光寺さんとはじめてお会いしたのは昭和五十一年の六月ごろだったと思います。『仏教タイム』主催で「総持寺の海外布教を考える」という座談会があった時のことです。

大本山総持寺は、港ヨコハマの近くであり、航空機時代になるとより近くに羽田空港があるといった環境に恵まれ、外国の方々がよく参拝に來られる関係もあって、誰いうとなく「国際禅苑」と呼ばれるようになっておりました。そんなわけで総持寺にとっては海外布教は常に大きな課題なので、そのようなテーマのもとに座談会が行われたわけです。当時私は本山の出版部長でしたので、当然その座談会のメンバーに加わる

ことになったのですが、その座談会の席上、善光寺さんが、「総持寺が真に国際禅苑たるにふさわしい本山となるには、まず、南方上座部仏教との交流をはかり、相互理解を深めるべきであり、そのためには毎年留学僧を送ってしかるべきではないか」という提案をなさいました。これには私も大賛成でしたし、その提案がみのつて、翌五十二年、本山から三名の留学僧を送ることになり、加えて総持寺に国際部が設けられ、善光寺さんは次長に就任されました。こうして発足した総持寺の留学僧派遣、はじめのうちはうまくゆくかみえたのですが、どうも本山というところは、古いことを墨守するには抵抗がないのですが、前向きで新し



いことをやろうとすると途端に拒否反応を示すところで、この留学僧派遣もわずか三年で火が消えてしまいました。

この時、「ひとに頼ってもダメだ。よし、独力でも俺がやったろう」という悲壮な決意が善光寺さんの脳裡に閃めいたのだと思います。そうでなくては、善光寺海外留学僧派遣がこんなに早く実現するはずはないのです。というのは、一昨昨年十月、釈迦殿が完成しましたが、それまでは善光寺さんは釈迦殿の建立に全力投球しました。釈迦殿が完成して、伽藍の整備が一段落しましたので、こんどは留学僧派遣、一昨年準備

をいたしましたして、昨年一月十五日、成人の日の吉辰をトして「留学僧派遣発足準備委員会」を開催、ここに向けてたく企画的な大事業が発足したのです。このような大事業は本山か、一宗の宗務当局が実施すべきもので一ヶ寺が実施するにはあまりにも大きな事業であり、そして険しい道であります。善光寺さんは、それをあえて独力でやり出したのでして、名譽ある第一期の留学僧に選ばれたのがあなたがたお二人なのです。どうかお二人は、善光寺さんのこの遠大な理想と骨身を削ったこのご精進を肝に銘じ、研鑽にはげんでいただきたい。タイ国には、諸外国から留学僧が来ておりますが、中で一番評判のわるいのが日本からの留学僧であります。どうかわるい先輩の汚名を返上して、日本留学僧ここにありの心意義を示していただきたくお願いたします。

最後に、この大事業のカゲの力となって方丈さんを支えてこられたのが奥さんです。方丈さんに対するとともに奥さんへの感謝をお忘れなようお願いします。